

巻頭言

グローバルリーダーシップ研究所
比較日本学教育研究部門長

古瀬 奈津子

本部門では、2017年度に第19回国際日本学シンポジウムおよび第12回国際日本学コンソーシアムを開催しました。2017年7月8日（土）・9日（日）には、「文化史上の源氏物語」を統一テーマとして、国際日本学シンポジウムを行い、1日目のセッション1では「制度・規範の変遷と『源氏物語』—明文化された制度と慣習としての制度—」をテーマとして、日本文学、日本史、思想史の研究者の方たちが、『源氏物語』と仏教思想、女房・女官の制度、儀式や知識、注釈書など、『源氏物語』とその時代の制度・規範などとの関係について、さまざまな角度から論じられました。2日目のセッション2では「表象文化史の中の『源氏物語』」をテーマとして、『源氏物語』と建築、音楽、能、絵画などについて、日本文学や建築史などの研究者の方たちが『源氏物語』の多面性を紹介してくださいました。また、中国から張龍妹教授（北京外国語大学）や胡潔教授（名古屋大学）をお招きして講演していただいたことによって、『源氏物語』の国際的研究成果が示されたと思います。今回は本学卒業生の方たちにも講演やパネルディスカッションにおいて報告や討論していただくことができ、この分野の研究者の層の厚さが印象的でした。このように『源氏物語』をテーマとして二日間にわたり、内容豊かなシンポジウムを行ったことに対して、日本文学の学界などから高い評価をいただくことができました。ご担当の先生方にはこの場を借りて改めてお礼申し上げます。

一方、2017年12月11日（月）・12日（火）には、国際日本学コンソーシアムが、「壁をこえる」を統一テーマとして、開催されました。昨年度から統一テーマは今までとは異なり、明確な形で設定されることになりました。「壁をこえる」は現在の国際的な状況および社会的な状況に基づいたもので、各部会で興味深い発表が行われました。今回の参加校は、従来の協定校以外に、フランス国立東洋言語文化大学やハワイ大学などからも参加していただき、例年に比べてやや多くの方々にお集まりいただくことになりました。そのため、部会が並行して行われることになり、全部の部会に参加することができないという事態も生じました。また、部会によって参加者の数に偏りがあったことにも問題があったと感じました。部会の編成を固定化しないで新たに編成することも必要ではないかと思えます。今後の課題としたいと存じます。

学内の組織改編が行われ、比較日本学教育研究センターは今年度からグローバルリーダーシップ研究所の一部門となりました。しかし、従来どおり国際日本学シンポジウムと国際日本学コンソーシアムを継続することができました。近年本学でも定年による教員の交代が頻繁に行われておりますが、本部門においては新しく研究員になられた先生方が積極的に参加してくださっており、本学の研究活動の活発化に寄与していると思えます。今後も皆さまからの変わらぬご支援をお願い申し上げます。

2018年3月